

未来へつながる学びを支援する訪問 報告

英語 加須市立北川辺中学校

実施日 指導案検討 令和7年 8月 7日 (木)
授業研究会 令和7年 12月 15日 (月)
訪問者 指導主事 安達 一樹

指導案検討会

● 単元名

Unit 6 – Guide Dogs (第2学年)

● 本時の目標

- 不定詞 (to + 動詞の原形) の副詞的用法を使って、「外国人と地域住民がふれあえるイベント」を理由を加えてALTに提案することができる。

【授業者の思い・意図】

* 単元末の言語活動を「ALTに外国人と地域住民がふれあえる行事を提案する」と設定し、行事の目的やその内容などについて、英語でまとまりのある文章を書く力を育みたい。

→ 地域の特性から、生徒が地域行事に参加する機会が多いため、生徒の興味・関心を引く題材となる。生徒の学びを単元末へとつなげることで、自分の考えを再構築しながら、まとまりのある文章で伝えられるようにする。

■ 参会者の声

- 単元を通じた指導を行うことで、英語力の定着につなげていくことを学びました。単元のゴールを設定し、目指す生徒の姿をイメージしながら授業を練っていきたいです。 (指導案検討会: 中学校教諭)
- 中学校の先生と外国語の授業について話し合うことを通して、改めて小中連携の大切さを再認識しました。学んだことを明日からの授業に生かしていきます。 (授業研究会: 小学校教諭)
- 中学校の授業の参観は、貴重な機会となりました。6年生を指導しているため、中学校の学習に円滑に接続できるよう、児童の良さを引き出しながら指導を続けていきたいです。 (授業研究会・小学校教諭)

授業デザイン改善のPOINT

■ 言語活動で扱う題材の工夫

- Small Talkを、生徒にとって身近な「地元の行事」をテーマにして行い、生徒の興味・関心を引きながら授業の導入を行った。
- 生徒が「話したい!」と思える言語活動の題材に変更することで、「英語で伝えたい」という意欲を高めた。

■ 単元のゴールから考える授業計画

- 生徒が単元末に「まとまりのある文章を書く」ことができるよう、1時間1時間の学習が単元目標につながる授業となるよう計画し(単元計画を立て)、「言語活動を通しての指導」を積み重ねた。

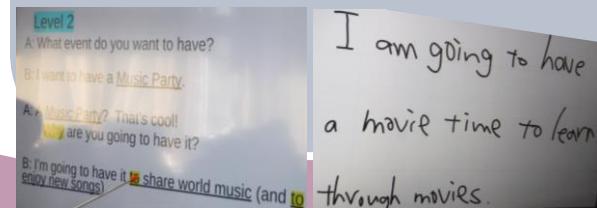
授業研究会

● 生徒の変容

◎ 単元のゴールに向けて授業を構成することで、生徒に身に付けさせたい力や学習内容が明確になり、生徒が単元の目標を意識して取り組もうとする姿が見られるようになった。

◎ 話すこと【やり取り】の活動では、伝え合う内容や表現を段階的に指導することで、生徒は自分の考えに理由を加えて、まとまりのある内容をスムーズに発話することができた。

◎ 授業研究会後の授業で復習を行い、既習表現を活用することで、学習内容が定着している様子が見られるようになった。



■ 授業者の声

- 「本取組を通して学んだこと」について
- 指導の手順や私自身の説明、生徒が主体的に学習に取り組める手立てなどについて、指導案検討会では授業デザイン(生徒の活動)が具体的に見えてなかったことがありました。授業研究会や多くの方々からの助言を通して、授業改善につなげることができました。
- 今回の授業では段階的な指導を行いつつも、パターンプラクティスによる活動が多かったため、生徒自身が自分の考えなどを思考・判断し、自分の言葉(英語)で表現する場面を増やしていく必要があると感じました。